



いま、こんな事が起こっています



SNSの炎上や
誹謗中傷



人種や性に関する
差別の問題



いじめ問題



コロナウイルス
感染者とその家族や、
医療従事者への差別

なぜこのような問題が
起こっているのでしょうか？

『ONE TEAM (ワンチーム)』

『ONE TEAM (ワンチーム)』は 2019 年に開催されたラグビーワールドカップで大活躍をした日本代表のチームスローガンです。ラグビー日本代表は足の速い選手、身体が大きい選手やパスが得意な選手がそれぞれの個性を生かし、世界の強豪国を相手に戦う姿は私たちに感動と希望を与えてくれました。

となみ野（砺波市、南砺市）には約 9 万 6 千人が暮らしています。いろいろな考え方や価値観、子どもから高齢者、障がいのある人や外国出身の人など様々です。誰ひとり同じ人間はいません。たくさんの個性で地域社会が成り立っています。

「みんなが個性を生かしながら、いきいきと活躍できる社会」について一緒に考えてみましょう！



先生の紹介



鷹西 恒 (たかにし ひさし)

富山福祉短期大学：教授
南砺市出身

大学2年(19歳)の時に交通事故にあい、頸髄を損傷、車いす生活となる。病院で約2年間リハビリテーションを受け退院。その後建設会社に就職し、バリアフリー住宅の仕事を。働きながら通信制大学で社会福祉士資格を取得。卒業後、障害者の就労支援、老人デイサービスセンターの仕事を経て、佛教大学大学院に進み、2001年修了。(社会福祉士、精神保健福祉士)



高崎 彩香 (たかさき あやか)

(福) 富山県社会福祉協議会 勤務
砺波市出身

生まれつきの脳性麻痺のため、手足が不自由で車いす生活をしている。富山国際大学子ども育成学部に進学し、社会福祉士・小学校教諭一種免許を取得。一般社団法人日本ソーシャルワーク教育学校連盟認定スクール(学校)ソーシャルワーク教育課程修了。現在は1人暮らしをしていて、職場へは電車で通勤している。

4つのテーマについて 先生からお話を聞きました。



個性って何？



高崎先生

個性とは、“自分らしさ”のことです。障がいがあることは個性ではありません。例えば、考え方や生き方は、一人ひとり違います。「自分の意思で決められること」が個性なのです。けれども、人を傷つけたり、決まりを守らなかったりすることは違います。みなさんの“自分らしさ”ってどんなところですか。

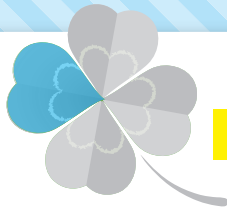


鷹西先生

一人ひとり生まれもって備わった性質のことであり、みなさんのありのままの姿こそが個性です。また、目に見えない部分では考え方や価値観に違いがあることも個性のひとつです。“自分らしさ”を大切にしていきましょう。



個性って一人ひとりが持っている“自分らしさ”なんだね！



私の個性



高崎先生

私の個性は、どんな困難があっても、諦めずに前に進んでいく粘り強さと行動力があることです。「やらない後悔よりも、やる後悔。」私には障がいがありますが、常に、どうすればできるかを考え、前向きな行動を心がけています。人生は一度きり。「やってみたいけれど…きっとできないから諦めよう」は、もったいない！

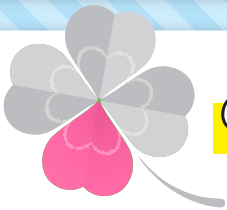


鷹西先生

常に前向きに生きていこうとする性格や行動力が私の個性です。身体に障がいがあることや車いすを使って生活していることは、個性ではなく“身体的特徴”や“生活様式の違い”なのです。みなさん一人ひとりにもこれからの生活に生かせる素敵な個性がきっとあるはず。探してみましょう。



個性を生かすためには、まず自分を知らなきゃいけないね！



みんなの個性を見つけよう！



鷹西先生

自分が友達をみつけるときに「①好きかも」、「②嫌いかも」、「③苦手かも」と三つの“かも”を考えてしまいませんか？周りの友達もあなたに対して同じように三つの“かも”を考えているはず。三つの“かも”は先入観でしかありません。人の外側だけでなく内面を知ること、その人の“個性”や“特徴”が見えてきます。優しい気持ちで自分や友達の個性を見つけてみましょう。

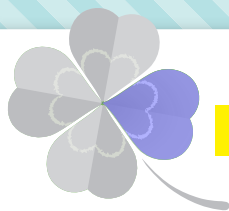


高崎先生

だれかの個性を探るとき、その人の「好きなところ」や「尊敬するところ」をたくさん集めてみてください。その一つひとつが、その人の個性です。たくさん集めれば集めるほど、その人のことを知ることができます。みなさんは、自分や友だちのキラッと光る素敵な個性、どのくらい知っていますか。



自分のまわりに目を向けてみよう！素敵な個性がいっぱいあるね！



目指そう「ONE TEAM (ワンチーム)」



鷹西先生



高崎先生

「働く」という字は、傍ら（かたわ周り）を楽にする「傍楽」（はたらく）という言葉が語源という説もあります。たとえば障がいのある人は働くのが難しいと多くの人が考えます。けれども、大きくて重いものを運ぶときは障がいに関係なく、誰でも助けが必要になります。障がいがあっても働ける人はいるし、誰かを助けることができるかもしれません。いろんな「働く」を想像してみてください。働いているのは大人だけでなく、中学生のみなさんも家庭や学校、部活動などでいろんな「働く」を持っているのではないのでしょうか。

そんな一つひとつの「働く」が集まると「チーム」ができるのです。チームに必要なのは信頼です。どんなに状況が厳しくても、周りを信頼してベストを尽くすラグビー日本代表の姿は記憶に新しいのではないのでしょうか。自分の出来ることを探し、周りを信頼しながら勝利を目指す選手の姿は他者と共働しながら生きてきた人類の姿そのものであり、だからこそ私たちは感動したのです。「私たちは元々ワンチーム」 お互いを認め合うことで「みんながいきいきと活躍できる社会」になれるのです。



みんなが自分らしさを発揮して、みんなの良さを認め合おう！

自分と周りの人には違いがあるけれど、
お互いに尊重できれば
私たちは **ONE TEAM** に
なれるんだね！





中学生のみなさんへ



「死んだ方がマシだ」、事故に遭^あってから14日目に医師から「一生障がいが残る」と言われた時に思ったことです。入院中の初めはとにかく絶望、苦痛、逃避の人生でした。ところがある日、偶然出会った車いす陸上の選手から「せっかく車いすになったのだからこれから楽しいこと見つけないとあかんよ」と言われました。今から思えばこの一言が絶望と希望の折り返し地点だったのでしょう。それまで聞こえないふりをしていた医師、看護師、リハビリの先生たちの支援の声が心に響き始め、ポジティブに生きる人間に変わっていきました。さて、障がいといっても身体、知的、精神、発達など様々な種類があります。他にも生活が苦しい家庭や病気、いじめ、不登校など、向き合えばドキッとするとする人たちがいます。けれども「みんな違って当たり前」なのです。

大切なのはその人たちと同じ方向を向いて生きることなのです。人生は団体戦（ワンチーム）なのですから。



みなさんは、障がいや病気のある人に対して、どのようなイメージをもっていますか。助けが必要な人、不便な生活をしている人というイメージの人がいれば、元気で明るいというイメージの人、中には、自分とは関係のない人と思っている人もいるかもしれませんね。

私は、よく「車いすの高崎さん」と言われることがあります。確かに私は車いすに乗っていて、見た目にもわかりやすいですが、障がいがあることだけが、私の全てではありません。私も、みなさんと同じように、好きなことや得意なこと、やってみたいことや、叶えたい夢があります。

障がいや病気のある人もない人も、障がいや病気の有無という違いはありますが、みんな「ひとりの人間」であることは同じです。私もみなさんも、自分の人生の主人公です。人生という物語の主人公は、自分しかいません。

みなさんは、これからどんな物語を描きますか。

ONE TEAM になるために!!

本誌では伝えきれないお話を、鷹西先生と高崎先生に
動画で語っていただきました。
自分の個性や、相手と自分の違いを知って **Let's ONE TEAM!!**

 **YouTubeで動画配信!**



「あなたの個性を見つけよう」編



「相手を受け入れ尊重しよう」編



自分さえよければいいの?
みんなとつくる社会



YouTubeで検索!



となみ野ワンチーム

検索



公益社団法人となみ青年会議所

〒939-1332 富山県砺波市永福町 6-28 砺波商工会館 3F
TEL.0763-33-5544 FAX.0763-33-5545



となみ青年会議所の
活動はホームページで!